

『新 大学教授になる方法』

鷲田小彌太著／ダイヤモンド社

突然ですが皆さんは大学教員の日常生活をご存知ですか。高校までと違ってホームルームなんてものもないし講義くらいしか接点がないから、それ以外の時間に何をやっているかなんて知らない人がほとんどじゃないかと思います。学生時代から多少なりとも大学教員の仕事に興味のあった私でさえそうでした。おまけに教員に対して世間知らずの変わり者なんていうステレオタイプの偏見を抱いていましたから研究室に初めて質問に行ったときは突然発狂されたりしないかとか、そりゃあもう緊張したものです。

本書はそんな謎に包まれた大学教員という職業になる方法について裏話をまじえながらユーモアたっぷりに紹介しています。大学教員を目指しているとか興味のある人はハウツー本として、そんなつもりはないという人も大学教員の日常生活の裏話を読んで十分に楽しむことができますのでお勧めです。

まずは大学教員を目指す人向けのハウツー本としての紹介文を書きましょう。ハウツー本という眉をひそめる方もいるかもしれませんが、本書は大学教員に簡単になるための魔法なんてものを紹介しているわけではなく、研究者としての心構えや気をつけるべきことを丁寧に書いてくれています。タイトルからイメージする以上に真面目な本です。例を挙げると「頭の休息には専門以外の本を読む」や「研究活動のストレス解消は短時間で」などは参考になりましたね。因みに著者は短時間のストレス解消にテレビと酒を用いているようですがこれは私も真似させてもらっています（笑）。ところで本書でも触れていますが、大学に職を得られるのは一般的に30歳前後です。就職活動は1・2年では終わらないケースが多いですから精神的につらくなることもあるでしょう。そんなときこの本を読むと大学に勤めている未来の自分をイメージすることが出来て、安心しましたね。大学教員を目指す方にはそういう精神安定剤としての使い方もお勧めです。

最後に、冒頭でも書きましたが本書のもう一つの魅力は「大学教員の日常生活の裏話」です。むしろこちらがメインと言っても過言ではないかも。もちろん教員は千差万別ですから書いてある全てが当てはまるわけではないですが、教員になった今読んでみても「あるある！」と思う点がしばしばありますから結構当たっていると思います。とかく謎が多くてとっつきにくい人と思われがちな我々の職

業ですが、本書を読んで教員を身近に感じてもらえば質問もしやすくなるかな、なんてことも期待しています。興味を持ったらは是非読んでみてください。

執筆者紹介

山本謙一郎

基盤共通教育部講師。専門領域は、力学系。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格
『新 大学教授になる方法』 鷺田小彌太著 ダイヤモンド社 2001年 1,944円

[ブックガイド目次へ](#)